Point 016			
39	"Have you seen Jim?" "No, but he ( ) be at his design and a can't	k." 〈桃山学院大〉	
	•	(10000000000000000000000000000000000000	
40	<ul> <li>(a) He wished me success.</li> <li>(b) "( ) you succeed!" he said to me.</li> <li>① May ② Wanting ③ Had ④ Wished</li> </ul>	〈亜細亜大〉	
41	He ( ) be over thirty; he must still be in his twentie 1 may 2 must 3 can't 4 oughtn't	・S. 〈東北工大〉	
42	The boy solved the problem faster than anybody election ( ) be very intelligent.  ① had better ② must ③ ought ④ can't	lse. He	
	1) had better 2) must 3) ought 4) can t	(水阳)生八/	
43	Hurry! The meeting starts at seven. We ( ) be late 1 needn't 2 don't have to 3 have to 4 mustn't		
Point 017			
44		( )	
	① had to ② must ③ must have ④ might	〈京都産大〉	
45	You ( ) go to university today because all the leccancelled.  ① don't have to ② may ③ ought to ④ should	ctures are	
46	その応募者の人となりを知るには、30分間面と向かって話すた In order to know the applicant, we have ( ) ( with her face to face for half an hour.	ごけでよい。 ) talk 〈明海大〉	
39 「ジ」	ムを見ましたか」「いいえ,でも彼は自分の席にいるかもしれません」		

- **40** (a) 彼は私がうまくいくことを祈った。 (b) 「あなたがうまくいきますように!」と彼は私に言った。
- 41 彼は30歳を超えているはずがない。まだ20代に違いない。
- 42 その少年は、他の誰よりも速くその問題を解いた。彼はとても頭がよいに違いない。
- 43 急いで。会議は7時に始まります。遅れてはいけません。
- 44 宿題を終わらせなければならなかったので、昨晩は友だちと外出できなかった。
- 45 すべての講義が中止になったので今日は大学に行く必要はない。

## Point 016 i may / can / must の用法

助動詞の基本問題は、与えられた英文の文意から正答を選ばせるものが多い。

39 may 「…かもしれない」—文意から判断

基本

40 may-祈願文で用いる

標準

▶ May + S + 原形 ... (!) の形で「Sが…でありますように」という意味を表す。

!!注意 かなり形式ばった堅い表現なので、日常的には使わない方がよい。

**41** can't [cannot] […のはずがない|-文意から判断

基本

**42** must […に違いない] - 文意から判断

基本

**43** mustn't [must not] 「…してはいけない|-文意から判断

基本

#### 整理 5

## may / can / must の用法

- (1) may
  - ⑦「…かもしれない」(→39)
  - ①[…してもよい]
  - の(否定文で)[…してはいけない]
  - ①(May+S+原形...(!) の形で) 「…でありますように」(→40)
- (2) **can** 
  - ⑦[…できる]
  - ①[…でありうる]
  - ⑦(疑問文で)「はたして…だろうか」

- ①(否定文で) […のはずがない] (→41) ⑦[…してもよい(=may)|
- (3) must
  - ⑦[…に違いない](→42)
  - (⇔ cannot […のはずがない])
  - ①[…しなければならない]
  - (⇔ need not […する必要はない])
  - ⑤(否定文で) […してはいけない] (→43)

## Point 017 have to do の用法

44 have to do […しなければならない]

標準

- ▶「…しなければならない」の must do は, have to do に言いかえられる。
- ▶ ただし、must は過去形のない助動詞なので、一般に現在時制以外では使わない。過去の文脈では had to do を、また未来の文脈では will have to do を使うことになる。本間は過去の文脈なので① had to を選ぶ。
- **45** don't have to do […する必要はない]

標進

- ▶否定形の **don't have to do** は「…する必要はない」の意味になり、must not do「…してはならない」ではなく **needn't[need not] do**「…する必要はない」の同意表現となる。
- 46 have only to do […しさえすればよい]

標準

▶ have to do に only が入りこんだ have only to do は「…しさえすればよ い←…だけしなければならない」の意味になる。

Point 018				
47 You ( ) leave your heavy clothing here as it is warmer □□□ there.				
① don't have to ② has to ③ won't ④ should 〈京都学園大〉				
<b>48</b> 彼はそんな失礼なことを彼女に言うべきではない。 □□□ He (not / ought / say / to) such a rude thing to her. 〈四天王寺大〉				
Point 019				
49 We ( ) call him "Sir." ① don't need ② not need ③ need not to ④ needn't 〈能谷大				
<b>50</b> 彼を不必要に傷つけるような提案を、私たちはあえてする気はない □□□ We ( ) not suggest something that would unnecessarily hurt him.				
51 How dare you ( ) to me like that!				
① speaking ② to speak ③ spoken ④ speak				
Point 020				
52 If you ( ) introduce me to Mr. White, I'll be much obliged. ① shall ② are ③ will ④ to 〈横浜商大				

① must ② need ③ should ④ would

She (

53  $\Box\Box\Box$  times. ) not give up smoking, although I told her to many

〈西南学院大〉

<sup>47</sup> そこはもっと暖かいので、厚手の服はここに置いていくべきです。

<sup>49</sup> 彼を「サー(卿)」と呼ぶ必要はありません。

<sup>51</sup> よくも私にあんなふうに言えるね!

もし私をホワイトさんに紹介してくださるおつもりであれば、たいへんありがたいのですが。

<sup>53</sup> 私は彼女に何回も喫煙をやめるように言ったのだけれど、彼女はやめようとはしなかった。

## Point 018 should do / ought to do の用法

47 **should do** 「…すべきである」—文意から判断

標準

48 ought not to do 「…すべきでない」 標準

#### 整理

51

## should do & ought to do

- (1) **should do / ought to do** ⑦ […すべきだ] (→47)、⑦ [当然…するはずだ]
- (2) should not do / ought not to do […すべきでない] (→48)

\*(1)の①「当然…するはずだ」の用例は、以下を参照。

He has left home now. He should [ought to] get to the office in an hour. (彼は、今、家を出たところです。1時間で会社に着くはずです)

#### Point 019 : 助動詞としての need と dare

いずれも一般動詞としても用いるが、疑問文・否定文では助動詞として使うこと ができる、と整理しておく。

49 needn't [need not] do […する必要はない] 標準

- ▶文法的に正しい形を選ぶ。need を一般動詞として使うなら don't need to do に、助動詞として使うなら needn't[need not] do になる。
- 50 dare not do 「あえて…しない」

標準

▶否定文で dare を助動詞として使った形にする。

How dare you do ...![?] 「よくも…できるね」 ▶定式化された表現として押さえる。

標準

### Point 020 主語の意志を表す will / 過去形 would

If S will do... 「もしSが…しようとするつもりなら」 52

発展

- ▶主語の意志は will で表す。過去形は would である。Point 008, 009 で 時・条件の副詞節では未来のことでも現在時制を用いると述べたが、主語 の意志を表す will は時・条件の副詞節でも用いる。
- 53 would一過去の主語の意志を表す

標準

!!注意 過去形の would は否定文で用いることが多い。

+プラス この will / would は、主として否定文で、無生物主語でも用いるので注意。 This door will [would] not open.

(このドアはどうしても開かない[開かなかった])

▶told her toのtoは**代不定詞**と呼ばれるもので,ここではto give up smokingの内容 を表している(→119)。

Point 021			
54	"Why don't you come along with me?"  "I ( ) rather stay here."  (1) will (2) could (3) must (4) would	〈東京家政大〉	
55	できれば、この宿題は明日に持ち越したくない。 I would ( ) not leave this assignment till tomorrow.	、〈立命館大〉	
<b>56</b>	"You ( ) go and see a doctor right away."  ① are better ② do better ③ had better ④ would better		
<b>57</b>	We ( ) bother Father now. He seems to be very bu ① don't have better ② had better not ③ had no better ④ had not better	1 <b>sy.</b> 〈京都産大〉	
Point 022			
58	I suppose this is where an old church ( ) be.  ① was used to ② used to ③ would often ④ was kept	〈学習院大〉	
59	She ( ) often come to see us when she was a child.  ① has ② should ③ would ④ would have	〈玉川大〉	
Point 023			
60	The street is all wet; it ( ) during the night.  ① must have rained ② should rain ③ cannot have rained ④ may rain	〈立命館大〉	

- 54 「私と一緒に行かない?」 「ここにいる方がいい」
- 56 「階段でつまずいて転んだんだ。くるぶしをひどく痛めてしまったよ」 「すぐに医者に診てもらった方がいいわ」
- 57 今はお父さんに面倒をかけない方がいいね。とても忙しそうだから。
- 58 ここは、かつて古い教会があったところだと思います。
- 59 彼女は子どものころよく私たちの家に遊びに来ました。
- 60 通りがすっかりぬれている。夜のうちに雨が降ったに違いない。

## Point 021 would rather (not) do & had better (not) do

いずれも否定形の not の位置に注意すること。

**54 would rather do**「むしろ…したい」

標準

▶Why don't you do ...? は「…したらどう?」という提案を表す表現(→461)。

**55** would rather not do 「むしろ…したくない」

標準

▶would rather do の否定形は, would rather not do になる。

**56** had better do 「…した方がよい」

● 英作 基本

!!注意 you が主語の場合,押しつけがましさが加わることがあるので,通例目上の人に対しては用いない。

**57** had better not do 「…しない方がよい」

標準

▶ had better do の否定形は, had better not do になる。正誤指摘問題で問われることも多い。

### Point 022 used to do & would (often) do

58 used to do 「以前は…だった」

標準

▶used to do は、現在と対比させて、過去の事実・状態「以前は…だった」、 過去の習慣的動作「…するのが常だった」を表す。本問は過去の状態を表 す用法。

**59 would (often) do** 「よく…したものだ」

標準

▶would (often) do は過去の習慣的動作を表す。

▶ なお、**would (often) do** には、現在と対比させて過去の事実・状態を表す用法はない。したがって、問題 **58** で ③ would often は入らないことも確認しておこう。

Point 023 must have done / can't have done / may have done

まずは、それぞれの表現の意味を正確に押さえる。この種の問題も、与えられた 英文の文意から正答を選ばせるものが多い。

**60 must have done** […したに違いない]

標準

▶③ cannot have rained「雨が降ったはずがない」は文意から不可。

You (to / not / kept / have / ought) her waiting on such a cold night. 

(明海大)

68 (a) There was no need to buy me an expensive birthday present, but you did.

(b) You ( ) ( ) me an expensive birthday present.

<sup>61</sup> 泥棒はこの窓から逃げたはずがない。この窓はあまりに小さすぎます。

<sup>62</sup> 私はその映画を見たかもしれないけれど、見たかどうか覚えていない。

<sup>63</sup> トムは昨日、そこにいたかもしれませんが、私たちは彼には会いませんでした。

can't[cannot] have done […したはずがない] 61

62 may have done [...したかもしれない]

might have done […したかもしれない] 63

標準

# must have done / can't have done / may have done の意味

いずれも、現在の視点から、過去の事柄に対する推量を表す表現。

(1) must have done […したに違いない] (→60)

(2) can't[cannot] have done […したはずがない] (→61)

may[might] have done […したかもしれない](→62, 63)

\*might have done は「(ひょっとして)…したかもしれない」の意だが、may have done とほぼ同意と考えてよい。

## Point 024 should [ought to] have done / needn't have done

**should [ought to] have done** […すべきだったのに] 64

標準

ought to [should] have done […したはずだ] 65

should not have done […すべきでなかったのに] 66

標準

67 ought not to have done […すべきでなかったのに]

needn't [need not] have done […する必要はなかったのに] 標準 68

# 8 should[ought to] have done / needn't have doneなどの意味

いずれも、「…だったのに(実際は逆だった)」の意味を表しうる表現。

(1) should have done ②「…すべきだったのに(実際はしなかった)」(→64)

⑤ 「当然…した[している]はずだ」(→65) ought to have done

 $\{2\}$  should not have done […すべきでなかったのに(実際はした)] ( $\Rightarrow$ 66, 67) ought not to have done

(3) needn't[need not] have done […する必要はなかったのに(実際はした)](→68)

- 64 どうして一人でコンピュータを修理しようとしたの? あきらめてしまう前に助けを求めれ ばよかったのに。
- 65 午前中にジェーンからメールを受け取るはずだったのだが、まだ届いていない。
- 66 私は背中を痛めてしまった。あの重い箱を持って2階分の階段を上がるべきではなかった。
- 68 (a) 私に高価な誕生日のプレゼントを買う必要はなかったのに、あなたは買った。 (b) あなたは私に高価な誕生日のプレゼントを買う必要はなかったのに。
- 61 1 62 3 63 2 64 2 65 3 66 4 67 ought not to have kept

### Point 025

- It is necessary that every member ( ) inform himself of the  $\square\square\square$  rules of the club. 1) would 2) should 3) might 4) could 〈大阪産大〉 Point 026 You ( ) be too careful in your choice of friends. 70 ① aren't ② don't ③ can't ④ ought not to 〈神田外大〉 I know it's not important, but I can't help ( ) about it. 71 1) but to think 2) think 3) but thinking 4 thinking 〈亜細亜大〉 彼女は出て行かざるをえなかった。(1語不要) 72 She (not / should / could / but) leave. 〈関西大〉 (a) It is only natural that he should complain about the treatment. 73 ) complain about the treatment. 〈北海学園大〉 (b) He ( ) ( 74 やって来そうなわずかな客のために店を開けておくよりは、閉めて □□□□しまう方がましだ。

We might as (close / open / shop / the / keep / it / as / well) for

"It's so nice today. We (well / as / walk / might)."

〈玉川大〉

<sup>69</sup> すべてのメンバーが、クラブの規則を知っておく必要があります。

<sup>70</sup> 友だちを選ぶ際には、いくら注意してもしすぎることはない。

<sup>71</sup> それが重要ではないのはわかっていますが、私はそれについて考えずにはいられません。

<sup>73 (</sup>a) 彼がその扱いに対して不平を言うのは当然だ。

<sup>(</sup>b) 彼がその扱いに対して不平を言うのももっともだ。

**<sup>75</sup>** 「ああ, バスに乗りそこねてしまった。次のバスまで30分待つことにする?」「今日はとても天気がいいわ。(バスを待つより)歩く方がいいわ」

### Point 025 that 節で should を用いる場合

69 It is necessary that S (should)+原形

標準

▶ It is ... that ~の構文で、補語に「必要・要求」などを表す形容詞が来る場合、that 節中は原則として「S+should+原形」(主としてイギリス用法)、または should を省略して「S+原形」(主としてアメリカ用法)になる。

+プラス「要求・提案」 などを表す動詞の目的語となる that 節も、原則として「S+should+原形」または「S+原形」となる(→ Point 138)。

# 整理 9 「that+S(+should)+原形」の形を従える形容詞・動詞

(1) 形容詞
necessary「必要な」
essential「不可欠な」
desirable「望ましい」
important「重要な」
right「正しい」 など

製詞
demand「要求する」
order「命令する」
propose「提案する」
suggest「提案する」
recommend「勧める」
request「懇願する」 など

\*過去時制でもthat節中の「should+原形」または「原形」は変化しないことに注意。

#### Point 026 助動詞を用いた慣用表現

70 cannot...too~「どんなに~しても…しすぎることはない」

標準

71 can't help doing […せざるをえない]

標準

72 cannot but do 「…せざるをえない」

標準

+プラス can't[cannot] help doing=can't[cannot] but do=can't[cannot] help but do と整理して押さえること。

73 may well do 「…するのももっともだ」

標進

▶ may well do には「⑦…するのももっともだ、①おそらく…するだろう」 という2つの意味がある。本間は⑦の用法。

+プラス ⑦の用法は以下を参照。

It may well rain tonight. (おそらく今晩雨が降るだろう)

**74** might[may] as well do ... as do ~ 標準

▶「~するくらいなら…する方がよい/~するのは…するようなものだ」と
いう意味。「…」と「~」を逆にしないこと。

75 might [may] as well do 「…する方がいいだろう」 

◆ 英作 標準 

▶ had better do (→ 56)よりもやわらかい婉曲的な表現。